

第16回 栗東市景観百年審議会の議事概要

1 開催日時 平成29年8月1日(火) 午後3時から5時15分まで

2 開催場所 栗東市役所 談話室 (庁舎3階)

3 出席者数 10名中8名

4 議 事

1. 議 事 会長の選出について
2. 協議事項 (1) 百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画の見直しについて
(2) 風格都市りっとう景観・緑化啓発プロジェクトについて
3. 報告事項 (1) 第二次栗東市緑の基本計画について

5 議事概要

1. 議 事

議案第1号 会長の選出について

- ・条例第35条第1項の規定により、学識経験を有するものの内から互選。委員より谷口委員を指名推薦、委員全員が承認され、可決される。
- ・その後、谷口会長が会長代理に竹山委員を指名される。
⇒ 会 長 谷口浩志 委員
会長代理 竹山清明 委員

2. 協議事項

(1) 百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画の見直しについて

○説明概要

- ・景観計画改訂のスケジュールについて説明。
- ・景観ワークショップ・景観まちづくりセミナーの結果について説明。
- ・景観計画改定案について説明。

○意見概要

(委 員) WSのまとめ、方向性は良い。セミナーも良い方向性が出ている。歴史的な場所での方向性が出ている。自分たちのまちに「誇り」が持てると良い。登録文化財の取組みや、新しい要素であっても褒めることで、地域の誇りになっていく。新しいものも宝になるモデルにするなど、褒めてつくっていけると、レベルがあがっていくと思う。さらにレベルアップしていくような、所々山ができて、メリハリのある取組みができると良い。

(会 長) いろいろと工夫して意見を引き出してもらえた。内容の濃いものになっていると感じた。セミナーについて感想や思いなどはありますか。

- (委員) 住み継ぐ家づくりということでお話をさせていただいた。個人の財産である家を公共性のあるものだと伝えることは難しいが、ふざけた話なども交えてお話させていただいた。皆の感想としてはどうだったか気になっていた。
- (事務局) 具体的、現実的な話の内容で進められたように感じる。実際に実行していくことが課題である。参加者以外の方々に情報を伝えていくには、どうしたら良いかと思う。
- (委員) こういうチャンスをとくさん作っていただくことが大切だと思う。参加者は少なかった。今回17人だったが、もっと来ると思っていた。回数を減らすのが普通かもしれないが、それで関心を持つ人が増えるとは思えない。多細胞的に、アメーバが広がっていくようにやっついていかないといけないと思った。環境衛生委員、ごみ当番などを巻き込むことができると良いと思う。当番の時に半径50m位、歩いてごみを拾うなどの働きかけも考えられる。トップダウンで行うこと、下から働きかけることの両方をミックスするような取組みを、時間をかけてできると良い。
- (委員) 市外からの参加者もOKだったのか。
- (事務局) 事前に京都新聞などの媒体からも開催の告知・参加を呼びかけていた。
- (会長) 見直しにあたり、大きく3つのポイントをあげてもらっている。①のより実効性の高い計画づくりに関しては、アクションプログラムや評価指標を設定している。景観計画の効果を実感できるようにしたい。アイデアがあればご意見をいただきたい。②の基準の見直しについては、現在の景観について気になっていること、目に付くことなどについてご意見をいただきたい。③協働の景観づくりを進めるための仕組みづくりとしては、市民団体と一緒にするなど、手法はいろいろとあると思う。市民にどう訴えていくか、委員の皆様の思うポイントなどについても、いろんな視点からご意見を出していただきたい。
- (委員) 届出制になったとして、強制力がないとそのまま工事に入られてしまう可能性もあるのではないかと。大津市や高島市ではメガソーラー施設の建設が目立ってきており、住民の反対運動なども起こっている。強制的な効力がないと、こういった問題が起きるのではないかと。どうしていくのか考えをお聞きしたい。
- (事務局) 単純に家の上に乗せる太陽光発電設備も、メガソーラーについても、現在のところ規制がない。景観上は届出しにしかならないが、届出を求め、景観形成基準を設けることで、行政が関わったり、景観審議会に対応できるようにしたい。大津市も高島市も、現段階で太陽光発電設備等に関する規制はないと思う。栗東市にもないので、今回基準を設け、事業者と協議できる場を設けていきたい。

と思っている。許可制ではないが、計画に組み込んでいくことで変わる。条例にどれくらい組み込んでいくかは、今後、検討が必要だと考えている。

(会 長) 行政としてせいっぱいがんばっていると思う。本当に至るところに太陽光発電設備が設けられている。設置に関する補助金を出してまで進めてきた部分もある。リゾート開発計画が頓挫した跡地をソーラーに置き換えている。太陽光発電設備の景観は、目障りとまで行かなくても良い風景にはなりにくい。早いうちに方向性を持ってもらったほうが良い。できれば規制も必要だと思う。原発事故後、急速に設置が進んだが、現在かげりも見えてきている。

規制に取り組むことで地域の人々の目を確かにして抑制することも考えられる。

(事務局) 太陽光発電設備に整備は、耕作放棄地対策の一環として取り組まれている面もあり、ともすると山地と農地に無秩序に設置されている。届出制にすることで、方向性を示すことができる。

(委 員) 景観地区を全域にかければ、太陽光発電設備についてもコントロールできる可能性はある。具体的な検討は課題だと思われる。芦屋市は景観地区をかけることでマンションの建設を止めている。法律の抜け穴はたくさんある。新しい事例を作ってはどうか。

(会 長) その辺の研究も進めていただきたい。すぐには難しいかもしれないが、検討していけると良い。

(委 員) 「建築物の保存」が今回の改訂で加えられるということか。10年前と意識が変わってきている今だからこそ、伝統的な建築物についても景観要素として捉えていこうということか。

(事務局) 景観重要建造物についての記載は、改訂前の計画でもある。もっと身近な建築物についても保存を景観形成の目標としている。

(委 員) 重要建造物等でなくても評価していくということか。それは大切なことだと思う。住んでいる人には、その価値がわかりにくい。

(事務局) 財産としてみるのも1つである。

(委 員) 重要建造物でなくても大切であるということを位置づけることが大切である。

(会 長) 1つ1つ伝統的な様式の建築物が並んでいる景観に価値があるということである。

(事務局) 街道においては特にそうだと思う。

(委員) 洋風の建築物は目立つが、和風の建築物は「普通」に捉えがちである。でも文化財としてとても大切だと評価することが大切であり、和風の住宅については、そこが弱い。

(委員) 彦根のキャッスルロードは市とタイアップして、どういうものが彦根城下の雰囲気合うかということを検討して整備された。

民家で宿屋をやっているところが増えてきている。街並みの中で安く泊まれることから、外国人などは気楽に利用しているようである。古いまちなみを活かして、まちと住んでいる人と文化を大切にしていける提言をしていた。大津でも東海道の沿道にはうなぎや呉服屋などがあり、市がバックアップして取り組んでいる。日本国内で安く泊まれ、文化を共有できる場が求められているように思う。マンションができるとまちなみが変わる。先にやっておかないと取り返しがつかないことになる。地域住民の人と文化施設を考えていければと思う。

(会長) 建物は住むだけでない。活用していくには地元だけでなく、知られていない価値を知ってもらうことが大切。京都でもゲストハウスが増えてきている。これまでの観光地が持つべきストック・資源とは違うもの、新しい資源がピックアップされてきている。新しいものを取り入れていく時に景観の視点からのチェックポイントが入ることで、新しい魅力につながる。そういう視点がうたいこまれていると良い。

(委員) 地域の目標として3つのポイントがある。

①は、歴史的な良いものを活かして残すということ。②は、歴史的ではない住宅地をどうするかということ。歴史的なものがモデル、目標になるのではないかと思う。歴史的なものを目標に修景していくことを市民で共有・合意できると良い。歴史街道がポイントとなる。市民的合意は必要である。③は、誇りの持てる中層の集合住宅のまちなみをどう作れるかが課題となる。高さや色彩は規制しやすいが、形、デザインの規制は難しい。どういう形にするのかは研究課題だと思う。P19～21で検討が止まっている。自分のまちを誇れる中層のまちができるとは思わない。ここが気になる。まちなみとしてどうなのか。いいものができてマネをすとか、ほめる運動から始まるのかもしれない。美しいまちなみといわれるパリも、1900年初頭につくりかえられた比較的新しいまちなみである。

(会長) 一斉にまちなみをやりかえるのであれば、できるかもしれない。統一したイメージ、目標を決めて配慮してもらう。市としての提案・ビジョンを示す必要があると思う。

(委員) 10年間同じ事を言っている。百年の1/10が終わっているにもかかわらず、景観

計画の認知度が 86.3%ということで、愕然としている。打ち上げ花火でもできれば何かできたのではないか。何か 1 つでもこれだという景観を作れないかと思う。10 年経ってここまで来たというものがあれば、歩みを進めることができると思う。市民にわかりやすく示して、市民に 1 つでもしてもらい、共有できたら、初めてこの計画も意味を持つと思う。

WS やセミナーなど、細かい作業をしてきたことを、1 つの流れとして市民が理解できればいいと思う。そこを聞きたい。今まで積み上げてきたものがこれで、次はここまで、を視覚化できる委員会にできると良い。

(会 長) 貴重なご指摘であったと思う。実効性の高い計画にするにはどうしたら良いか、どうすれば市民が関心を持ってくれるか。WS もセミナーも良いが、参加者が少なかった印象が残る。なぜ少なかったのかを考えないといけない。関心を持ってもらうためには単発の取組みでは難しい。栗東に行くといつも何か景観のことをやっているという風にできないかと思う。

アクションプログラムについても、「今年はどこをやるか」で、ターゲットを絞ってやっていった方が良いかもしれない。計画なので、ある程度長いスパンで見ること必要だが、どこからやるか、今年はどこをやるかを定めていく必要がある。そこに市民をどう巻き込んでいくかも検討する必要がある。

(委 員) 歴史街道についての記載など、今回の改訂でかなりレベルがあがっていると感じる。どう実現できるかが大切である。

(委 員) 栗東はやっぱそこがいいよね、というところができるとう良い。

歴史街道について、10 年前よりは関心が上がっているアンケート結果があると良い。計画の認知が 14%程度しかないのはどうか。計画について、皆に手にとってみたいと思わせることができれば良い。潜在的意識があがっていればあがっているし、評価されると思う。

(委 員) 厳しいご意見をいただいた。10 年間という期間で、街道筋には緑が増えたと感じている。生垣の助成制度を利用したかどうかはわからないが、今まで空いた場所には車やモノが置かれているだけだったが、木や生垣が増えた。街道筋の景観としては良くなったと思う。10 年では短い。スパンはわからないが、栗東市の景観の特徴とまでは至っていない。

(委 員) 学校で景観学習を行う副教材等はできないか。観光では、皆まちなみを見に行っている。まちなみの良さ、景観は勉強しないとわからない。

(委 員) 葉山東小学校では、草津本陣からガイドが説明しながら街道を歩く機会を設けている。10 年くらい続いていると思う。2、3 年前から、歩いてみて見た「まち」について感想を尋ねている。「ごみが無かった」、「綺麗だった」等の意見を

もらっている。

(委員) 勉強しないとわからない。身近で大事なポイントとなる問題でもあるので、教材になると良い。大人に対しては難しいが、子どもからできると良い。

(委員) P64、65 に書いてあることを実行してもらえれば良い。

(会長) 小学校を巻き込むことは難しいところもある。漫画でも副読本を作って、景観を楽しむことができれば良い。まちづくりに子どもを巻き込んでいかないと将来は無い。30年後にまちづくりをになう子どもたちに引き継がないといけない。東近江市でもやっと中学生を巻き込み始めた。20年も経てば小学生は大人になり、この地域にいるか、出て行くかなどを決める。今から景観を観点に地域教育をしていくことが大切。大人は難しい。

(委員) 住んでいる人は、「自分たちのまちはこういう所だ」などとなかなかいえない。仮に「栗東はこんなところだ」というポスターを市外の人につくってもらうと面白い。感想を言ってもらうと、あらためてよいところに住んでいると気が付くこともある。よその人に「どんな市なのか」、「どんな市になろうとしているのか」を聞くと、市民のアイデンティティになる。

(委員) 市の見学のバスのように、名神のICがあつて、8号線が通っていて、工業地があり、人口が何人で、市域の2/3が山の静かなまち・・・くらいはいえるが、それ以上のことをどう言えるかというと思いつかない。

(委員) 土日に子どもと親が楽しめる市、子育てにいいまち。「子育て」はいい言葉。光や未来が感じられ、自然が多いことも恥ではなく誇りになる。言い続けて、100年繰り返していくアクションができると良い。

(事務局) P74のアクションプログラムや、P77の評価指標の数値について、ご意見がありましたらお知らせいただきたい。

景観計画を知らない人が86%ということに愕然とした。景観計画を知っている人を増やしていかないといけない。10年前に県内でも斬新な取組みとして『風格づくり会談』を始め、年に400件の会談を行っているが、設計者とのみの実施となっており、どうやったら施主につなげることができるのかということについて、努力が無かったと思う。今回、会談を行った人に木をプレゼントする仕組みを検討している。生垣助成条例はあるが、オープン外構が嗜好されることが多い今、木1本であれば受け入れられるのではないかと考えている。栗東は山地が多く、空気が良い。「空気が良いまち」と感じてもらえると良いと思う。苗木のプレゼントにはお金もかかるが、風格づくり会談をきっかけに、景観について話をしていけるように取り組みたい。

景観重要建造物や景観重要樹木については、これまでも指定の方針は記載していた。今回、指定の手順についても記載している。

ほっこりまつりは元々、景観地区の指定につなげることを意図していた。市外からも人が訪れるまつりになっていることもあり、市外の人にも建築物について説明するなど、景観との関わりを作っていきたい。

堂々りっとう景観記念日の第1回目は大宝神社で行った。松の木の植栽復活などのご意見も出たが、何もできなかった。景観団体の指定などもできるようにしていきたい。

(委員) 風格づくり会談について、普通であれば規制としか思われないうる。建て主に市の意義をちゃんと伝える必要がある。

(事務局) そこができていない。やっていきたい。

(委員) 工事のためにブロック塀を壊す必要があった時、通常であればブロック塀を戻すところだが、会談でブロック塀はやめてといわれたこともあり、生垣にすることを提案し、施主の了解を得て生垣にさせていただいた事例もある。小さなことだが、できていることもある。なんとなくボディブローのように効いていると思う。

(事務局) 木を一本植える、花を植えるようなことでも、何かキャッチボールできるようにしたい。

(2) 風格都市りっとう景観・緑化啓発プロジェクトについて

○説明概要

- ・「景観を考えるウォーキング&写真講座」の結果について説明。

○意見概要

(会長) 写真講座をカメラマンの目で見てどう思いますか。

(委員) その土地に住んでいると良さがわからない。外の目で発見していくことが大切だと思う。中山道、東海道も地図でみると離れているようにも思うが、大宝神社と安養寺、目川、小槻神社など、神輿の巡行路であるなど、つながりの歴史が残っているように思う。探っていくと面白い。資料6にまとめているが、マンションがたくさん見える大宝神社の周辺も、路地に入ると昔のところが残っている。守山の人が駅へのアクセスに使っている、大宝神社裏の小川沿いの道も良い風景である。中ノ井川の桜も撮影ポイントである。いろんな良いところが見つかった。金勝川の堤防に登ると東海道、三上山が見える。小槻神社、山につながる景観を見ることができて良かった。もっと知ってもら

えると良い。

(会 長) 景観計画の表紙になっている福山さんの絵の場所も、地元の人も知らなかった。すばらしい風景に気が付く、発見する取組みも必要。景観図鑑の取組みも長く続けて欲しい。計画をどう市民に知ってもらおうかも考えていかないといけないと思う。

3. 報告事項

(1) 第二次栗東市緑の基本計画について

○説明概要

- ・緑の基本計画の概要について説明。

○意見概要

(委 員) 緑の基本計画の概要版について、公園や広場の利用頻度等、他市と比べてどうなのか教えて欲しい。

(事務局) 草津市等で緑の基本計画の見直しに取り組んでいる。アンケート調査等を行うと思われるので、資料があれば提供する。

以上